

現役教師ですが
“教育”について
こんなことを考えてます。

—これからの教育を担う人たちへ—

受験生にとって聞けそうで、なかなか聞く機会がないのが現役教師の教育観。
毎月1つのテーマを取り上げ、先生方の考えを聞いてみました！

今月のテーマ：「生徒が自ら考え行動する部活動」

今月のテーマは「生徒が自ら考え行動する部活動」。部活動は生徒指導においても大きな役割を果たしますが、生徒が自主的に行動するような効果的な指導は難しいもの。宍戸先生はどのように工夫したのでしょうか。

著 宍戸隼

千葉県八千代市出身。平成16年
中学校教諭になる。現在、千葉県
八千代市立萱田中学校教諭。

バスケットボールと自分

私は小学校4年生から大学まで、バスケットボール部で活動してきました。父は高校教師でバスケット部の顧問、兄は国体選手というバスケット一家に生まれました。

人生の大きなターニングポイントは高校時代。全国レベルの高校でチャレンジしたいと親元を離れ、神奈川県にある名門高へ進学しました。

将来は全日本選手になる！ という夢を持ち、覚悟を決めて門を叩いたのですが、待ち受けていたのは、想像を絶する厳しい練習、理不尽な上下関係、しごき……。

自分でもよく耐えたと感心しますが、何があっても耐えられるという忍耐力や自信がついたのも事実です。

人生最大の挫折を味わったのも高校時代。1年の時、「マネージャーにならないか」と言われました。これはプレイヤーでは使えないと言われたようなもの。私は泣きながら断りました。

その出来事をきっかけに、死に物狂いで練習し、レギュラーを取れました！ ってなるとドラマのよう

な話なのですが……。そんな簡単じゃないんですよ。「どうせ俺なんて」と心で何万回叫んだか分かりません。

このまま終わりたくないという思いから大学に進学しました。辛く厳しい部活動でしたが、この経験を活かし、がんばる子どもたちの力になりたいと中学校の教師になりました。

しかし、この経験を「よし！」と思っていたことが、後に私自身を悩ますことになります。

2年目から県大会の常連に

大学卒業後、4年間の講師経験を経て、千葉県で採用されました。初任校はいわゆる「教育困難校」でした。部活指導は生徒指導の効果も求められ、厳しく「軍隊」のようなチーム作りをしました。

試合をしても、うちのチームは1回戦負け。私は無我夢中で取り組みました。

「千葉県で一番になりたければ、千葉県で一番厳しい練習をしろ！ 強いチームの前によいチームになれ！」と口癖のように伝え、かなり厳しい指導をしました。それでも生徒たちはついてきてくれました。

その結果、2年目で県大会に出場したのをきっかけに、毎年出場するチームになりました。初任校の5年間で多少の結果を残せたので、自信を持って2校目に異動できました。

自分を変える

2校目でも県大会は毎年出場しましたが、このあたりから、私の指導が生徒とマッチしていないという違和感を抱き始めました。保護者からクレームをいただくこともありました。

自分が変わらなければいけないと思ってはいたものの、何をどう変えてよいか迷い、何よりも自分を変えるということは、自分がよし！ と思っていた高校時代の経験を否定することにならないのかと悩みました。

そんな中での3校目への異動。これをきっかけに少し自分の指導を変えてみる決意をしました。変化させたのは次の2点です。

① じっくり待つ。

技術的なことだけではなく、生活面も含めて、こちらが要求していることを実践するには子どもによって差があり、できるようになるには、それぞれかかる時間が違うということを認め、焦らず待つことを意識しました。

② 生徒との対話を大切にす。

生徒がどのような考えを持っているか、どうしたいのか、話を聞くことを心がけました。指導を少し変えてみると、生徒が分からないことを頻繁に質問してくるなど、意思表示するようになりました。自然と笑顔も増え、楽しさを感じながら取り組んでいたように思います。

生徒が自ら考えて行動する部活動へ

その後、教育委員会で勤務した3年間に自分の指導を振り返ってみたところ、間違いだらけだったと反省ばかりです。このままではいけないと思い、講演会やいろいろな方との出会いから勉強する機会をたくさん作りました。

同時に、文科省による部活動のガイドラインも施行され、部活動の在り方を考え直す機会となりました。

現代の子どもたちは、自ら考え行動する力が不足しています。言われたことは素直にやりますが、これだけでは社会で通用しませんし、スポーツでも同じことです。

部活動を通して、自ら考え行動する生徒を育てることが部活動の意義だと思います。生徒のやる気を引き出し、生徒が自ら考え行動する部活動にすることが大切だという考えに至りました。

現在、私のチームでは大会が終わると、1週間ほど生徒に今後について考えさせるようにしています。自分とチームを振り返り、次に向けて何を練習する必要があるのか、今後の練習メニューをボトムアップ型で考えさせています。

もちろん私の考えもありますが、まずは生徒がどう感じているか生徒の考えを尊重します。

対話をしてお互い納得して再出発すると、目標設定もしっかりでき、私がいなくても生徒自身が自分たちで考え、厳しく追い込んで練習するようになりました。

ほんの少しアプローチを変えただけで、生徒の取り組みが大きく変わったことは、大きな成果と感じています。

部活動は「心と体の鍛錬の場」と捉えています。私の中でこの考えは、いつの時代も普遍的ですが、取り組み方や生徒へのアプローチの仕方は時代と共に変化し、それに伴い、教師も考え方を変化させていくことが大切だと思います。

自分を変化させることは、レベルアップの証。一生勉強！ 一生青春！ だから教師は辞められません。

今月のまとめ

- 指導の改善を図るためには、自分の過去の経験に囚われずに考えることが大切。
- じっくり待つことと、生徒との対話を大切にすることで指導が改善していった。
- 生徒の考えを尊重し、対話で納得して再出発すると、自主的に取り組むようになった。